

カレード通信 Vol.51

2022年
1月号

小澤館長のコラム Vol.7

「米が高い」その理由は「北陸だから？」

ひとり暮らしが長く、スーパーでできるだけうまくて安い米を買う能力に長けていると思っている。以前はずっと関東に住んでいたのが様々な産地・種類の米が流通しており、米を買うのが楽しかった。野々市へ来て趣味のスーパー巡りをしたが、米がやや高い印象を受けた。種類が少なくてどの店もほとんど値段が変わらない。安くないのが残念だったが何種類か食べてみるとこれがどれも美味しい。そうか、北陸は米どころだから他の産地の米をわざわざ仕入れる必要がない。そして米どころゆえにいい米を作っているから当然値が張る。いや、関東で売っている格安のブレンド米なんかよりずっとお得感のある値段と言える。確かめていないが同じ米を関東で買ったらもっと高額なのだろう。ハズレなしでうまい米が手に入る野々市はやっぱ便利だと思った。(つづく)

図書館展示情報

一般展示 「笑う門には福来る」

2022年が始まりました！
新しい年を笑顔で始めてみませんか？
古来より、いつも笑いが絶えない家には
自然と幸福がやってくるといいます。
たくさん笑って、
幸せを呼び込みましょう♪



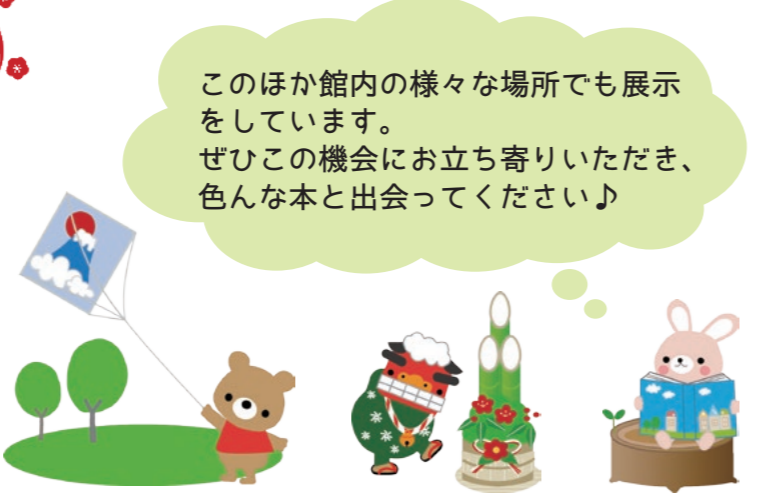
児童展示 冬を楽しもう！！

寒くても元気に楽しく過ごせるような、
おそとで遊ぶための本や、
おうちでゆったりできるような
本を集めました。



YA展示 冬季オリンピック特集！！

1月、2月のYA展示のテーマは「冬季オリンピック」です。2022年2月から中国・北京での開催を予定している冬季オリンピックを楽しめるように、開催地中国の事や採用競技のことがわかる本を中心に集めました。
東京オリンピックの感動をもう一度。



このほか館内の様々な場所でも展示
をしています。
ぜひこの機会にお立ち寄りいただき、
色々な本と出会ってください♪

1月 January

日	月	火	水	木	金	土
						1
年末年始休館(12月29日~1月3日)						
2	3	4	5	6 新春竹筆書道 パフォーマンス	7	8 陶芸教室
9 カレードシネマ	10	11 赤ちゃん おはなし会	12	13	14 料理教室	15 陶芸教室
16 こども おはなし会	17	18	19	20	21	22 陶芸教室
23 かがみ実験教室	24	25	26	27	28	29 陶芸教室
	30	31				

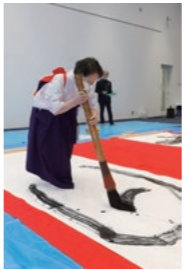
1月カレードイベント情報！

新春竹筆書道パフォーマンス

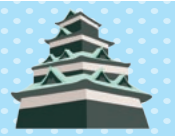
日時：1月6日(木) 14:00~15:00
場所：オープンギャラリー
対象：子ども
予約不要・参加無料



竹筆による書道パフォーマンスを行います。
パフォーマンス後には、竹筆を使った書道の体験会も行われます。
出来上がった作品は、館内ブックタワーに展示します。今年は何んな作品になるのか、ぜひ楽しみに！



カレードシネマ 「家康、江戸を建てる」



日時：1月9日(日) 13:30~16:00 (13:00開場)
会場：音楽スタジオ
定員：20名(当日先着順) / 予約不要・参加無料
作品：「家康、江戸を建てる」

～前編 水を制す / 後編 金貨の町～
(NHKエンタープライズ2019年製作・145分)
出演：佐々木蔵之介、柄本佑、市村正親 ほか

見渡すかぎりの湿地が広がる寒村の江戸を、日本一の大都市にするという途方もない夢を抱いた徳川家康と、その夢に人生を懸けた名もない男たちの「江戸づくり」の物語をお楽しみください。

12月イベント報告

針金造形アーティスト 橋寛憲展

「はりがねのいきものたち」一本の針金から生み出される生き物たちの世界

11月25日~12月26日まで市民展示室・オープンギャラリーにて『針金造形アーティスト橋寛憲展「はりがねのいきものたち」一本の針金から生み出される生き物たちの世界』が開催されました。
作家による実演や「親子でつくろう！針金アートワークショップ」をはじめ、「はりがねのいきものたちクイズ」などたくさんの方々に楽しんでいただきました！



今月のおすすめ本

『みえるとかみえないとか』

著者：ヨシタケ シンスケ 出版社：アリス館 分類ラベル：E/ミエ

もし目が3つ以上あるのが当たり前という世界の生きものが地球人を見たら、地球人は目が2つしかなくてかわいそうなのではないでしょうか？私たちの多くは目でものを見て状況を判断して生活をしています。私にとってはそれが生まれながらの感覚なので普段の生活に苦勞も不便も感じていませんし、それが当たり前だと思っていました。同じように思う方はきっとたくさんいらっしゃるでしょう。この絵本では目が見えない生きものや目が3つある生きものなどが目を使うときのルールや、触覚・嗅覚を使った視点を紹介しています。目で状況を把握する以上にいろいろなことを体全体で感じ取っている様子を見ると、目で見ることだけで足りているのかな？と私は考えさせられました。絵本なので子どもから大人まで誰にでも手に取りやすいと思います。まずはパラパラっと開いてみてください。きっと皆さんも目からウロコが落ちたり、意外な発見に出会うかもしれません。(スタッフA)

こちらの本は、カレードと富奥公民館に1冊ずつ所蔵しています。